

科学研究費補助金（基盤研究（S））事後評価

課題番号	16105001	研究期間	平成16年度～平成20年度
研究課題名	人工多座配位子を用いた金属錯体の空間配列および特異な動的機能のプログラミング	研究代表者 (所属・職)	塩谷 光彦（東京大学・大学院理学系研究科・教授）

【平成22年度 事後評価結果】

評価	評価基準
	A+ 期待以上の研究の進展があった
○	A 期待どおり研究が進展した
	B 期待したほどではなかったが一応の進展があった
	C 十分な進展があったとは言い難い
<p>(意見等)</p> <p>人工分子系における自己組織化（ボトムアップ型の物質構築）に関しては、未だその手法は確立していない。本研究は、相補的水素結合及び多様な金属配位結合を駆使して、新しい構造モチーフ、自己集合型カプセル、金属錯体型ナノマシンによる分子運動伝搬など独創的で今後の基盤となる成果を挙げている。研究成果の多くが質の高い専門誌に掲載され、またハイライトとしての紹介や新聞報道はその成果に対する関心の高さを示している。新学問分野の開拓には至っていないとはいえ、当初の研究目標は達成されつつあり世界的な評価も高い。</p> <p>また、本成果は基盤的なものであり、早急な実用性は求められていないが、分子マシンやカプセルなどには、他分野へと広がる可能性が感じられる。今後の一層の研究進展が自己組織化の一般的な方法論に繋がることを期待したい。</p>	